

# 岡山県生涯学習センター機能強化基本計画等検討委員会第4回会議 議事概要

日時 平成23年8月31日(水)

13:30~15:00

場所 県庁南庁舎1階第2会議室

## 1 開 会

## 2 議 事

- (1) 岡山県生涯学習センター未来科学棟(仮称)整備基本計画(案)に係る  
おかやま県民提案制度(パブリック・コメント)の募集結果について
- (2) 岡山県生涯学習センター未来科学棟(仮称)整備基本計画(案)について
- (3) その他

## 3 閉 会

### < 議事概要 >

#### パブリック・コメントの募集結果

#### 事務局から説明

委員 基本計画本文、参考資料を通して、高校生の時期の人たちの利用あるいは参加に対して、あまり意識がいないように見えた。高校生の参加を促すのは難しい問題なので、答えはないと思うが、高校生もここにやって来るようになると、次に大学に進学するだろうから、将来、大学生になったときに戻ってくる形で、指導者育成の種まきのように思う。高校生の積極的な参加が期待出来るような何か方策を考えておくことに価値がある。次に、中学・高校で扱うレベルの内容をお客さんに正しく説明し、理解してもらう、あるいは理解した気になってもらうには、説明する側に大学後期から大学院以上のレベルの指導者が必要と思われる。特に実験系では色々な広範な知識を持っている人が必要である。そういう人たちを自分たちで養成したり、大学その他の研究機関から来てもらうことも大切であるが、民間の活力の導入として、予備校などの協力を要請してもいいのではないか。予備校では授業の時間の中で実験を包み込む事は不可能であるが、未来科学棟で実験するためのマンパワーやノウハウとして協力関係をつくれたら非常に成功する可能性があるのではと考えた。次に図面を見ていくと、職員の居場所が不足しているようである。建物自体が小さいので余りスペースを取るとは難しいが、そこに人が長く働いて活躍することを考えると、ここでしっかりやっっていこうと思えるようなスペースがあればいいと思った。またスペースの問題に関わってくるが、中学生、高校生対象の実験をやっっていこうとすると、実験のスペースが不足しているように見える。建物の制限があるので難しい問題ばかりだと思うが、考えなければならないことである。

事務局 高校生の参加の促進についてであるが、基本計画の7頁と34頁に關係の記述を記載している。本委員会において、専門高校との連携についても御指摘があった。(基本計画の)7頁に学校教育との連携の方向性を示しているが、高校生や大学生にとって創造的な活動や研究成果を発表する場ということで、小中学生の実験実習の環境だけではなく、高校生の学んだ成果、研究成果をここで生かしていく場としても考えており、その記載を加えている。(基本計画の)34頁に学校教育との連携プログラムが記載されており、高校や大学が、研究成果の発表の場や科学の楽しさや魅力を伝える場として活用するなど、理科・科学の学びを促進し、更なる創造的な活動に発展するための場として活用ということで、例として、専門高校等の課題研究発表の場ということに記載している。もちろん専門高校だけではなく普通科高校も含めてであるが、理科の好きな人材の育成、今後の岡山の企業、産業等を担っていく科学の人材育成の種になっていくという意識は基本計画の中にも盛り込んでいくということで、小中学校だけではなく、高校、大学をも視野に入れた記述としており、1点目の指摘については基本計画の中で反映されていると考えている。2点目の指摘、中高レベルで扱う内容を理解してもらうためには、それだけの知識を持った人が必要だということについて、予備校の記述についてはないが、例えば(基本計画の)34頁、学校教育との連携プログラムの記述の中で、岡山県総合教育センターや岡山大学教師教育開発センター等と連携しつつと記載している。岡山大学の教育学部が持っているコア・サイエンス・ティーチャー(CST)の取組との連携を意識しているが、今後、理科の先生を目指していく大学院生といった人たちも、このCSTに参画している。そういった人材の実践機関の場として活用していくことも視野に入れている。具体的な記述として予備校という記述はないが、しっかりとした知識レベルを持った人を配置していくということは考えていく必要があり、御意見として承りたい。3点目の職員のスペースということだが、(基本計画の)19頁の図面の中で事務・管理スペースとあるところが、職員が配置されて勤務するイメージである。4点目の中高生の実験スペースが不足している点であるが、先の図面の科学体験・学習広場で分かるように必ずしも十分なスペースがあるとは言えない。(基本計画の)10頁に事業・コンテンツの考え方の3つのテーマとして、様々なものをこの施設で具現化していこうと記載している。ここに、施設上の制約があり、限られたスペースの中で検討していくこととなるため、3つのテーマに関する事業・コンテンツを時期にあわせて選択・抽出する、また、本施設だけでなく、現在のセンターの施設・設備や、連携・協働する関係機関・団体等の活用、と記載している。現在、生涯学習センターには烏城高校が併設されていて、烏城高校の理科の実習を実施するための実験教室がある。場合によっては、そういった所も活用しながらということも視野に入れている。非常に限られたスペースで、これ以上の実験スペースを更に拡充していくことは難しいため、様々な機関、あるいはセンターとの一体的な活用ということで、施設上の制約をクリアすることが出来ればと考えており、御指摘に対しては反映出来ているものもあるが、今後の運営体制の検

討に当たって参考にさせていただきたい。

委員 (会議資料の) 4頁の管理運営計画の番号11, 12の教育委員会の考え方の中で、有料で貸出しをするなどがあるが、こういった場合を想定しているのか。

事務局 例えば、(基本計画の) 15頁にあるサイエンスドーム、2階のプラネタリウムであるが、このドームの使い方として、ステージを設置して、プラネタリウム・全天周映像と公演等を組み合わせたプログラムを実施していけるような場とすると記載している。もちろん、センターの事業としてプラネタリウム・全天周映像の投影をしていくのだが、例えば、音楽の関係団体がこのサイエンスドームを使って、プラネタリウムコンサートをしてみたいと申し出があった場合、この施設の賃料ということで有料にはなるが、学校利用等のない時間帯に貸出しすることは可能だと考えている。そういった形で、出来るだけ歳入確保ということも考えながら運営を進めていく必要があると認識している。

委員 これが、生涯学習センターとの一体的な建物と考えることから、開館時間等についても現在のセンターのようになっていくことを考えているのか。

事務局 利用時間については、現在のセンターとの整合性も考えながら、利用者の利便性を考慮し検討するというのも基本計画の中で記載しているので、センターと一体的に考えていく必要がある。

## 基本計画(案)

### 事務局から説明

委員 プラネタリウムの料金が無料と有料の場合の運営の仕方、あるいは来場する人の見込みはどのように変わってくると考えているのか。有料にすることが、どのくらいメリットがあるのかということを確認したい。

事務局 通常、一般的に考えた場合、プラネタリウムの料金を徴収しない方が利用者の見込みは上がっていくことになる。利用者確保を図っていく一方で、館が自立して運営していくことを考えた場合、ある程度の歳入確保も考えていかなければならず、利用料金を取らずに運営費を全て県の財政で賄っていくことは厳しい状況である。そうした状況もあり、他館の料金等も勘案しながら、有料の方向で検討を行うと記載しているが、団体で利用の場合の低減とか、学校利用の場合に利用してもらうためのインセンティブを付けるとかの工夫が必要と考えている。利用料金については、利用見込みと連動していくものであるが、徴収してもなお、利用してもらえるような工夫をあわせて行うことで、歳入も確保し、利用者も確保していくという道筋を探ることが出来ればと考えている。

委員 既に考えていることと思うが、学校等団体利用の促進、学校との連携をこの館は目指すのだが、既に存在している博物館や美術館など、色々な所が学校利用の促進を言いつつも、進んでいない部分がある。それは学校の先生の博物館や美術館に対する理解が低く、実は博物館、美術館、科学館は色々なコンテンツを提供しているのだが、先生は使い方を分かっていないというようなことがある。最近聞

いた話だと、他県の例だが、年に1回だけ、学校の先生には無料で開放するという取組を旭川とか静岡県でされている事例を聞いて、これはいいなあと感じた。例えばプラネタリウムなどにしても、通常は有料にならざるを得ないと思うが、学校の先生や団体の長の研修など、学校の研修や社会教育関係団体の研修といった形で積極的に利用したり、あるいは年に1回だけ無料にして開放するとか、利用を促進していく方策も考えられていいのかと思い、将来的な運用の方法として意見させてもらった。

事務局

プラネタリウムの利用については有料ということも考えていかなければならないが、いずれの館も減免措置がとられている。例えば主催事業として、県が主催する指導者養成の講座、そういったものに参加した方々には、その利用に係る料金は徴収しないことが考えられる。指導者養成という視点は非常に重要だと思っているので、参考になる御意見として承りたい。その上で、今回、基本計画案を修正し、(基本計画の)34頁で学習指導要領の記述を加えた。御指摘のとおり、博物館との連携という部分では、現実に十分に出来ていないということも聞いている。そういった視点からも、学習指導要領において、学校が博物館、科学センターと積極的に連携・協力していくことが明記されている。学校の先生からは「ここが明記されているのだから、これから博物館、科学センターとしっかり連携をしていきましょう、学校に対してしっかりアピールしてください」という声も聞いている。これらの御意見を踏まえながら、しっかりと学校と連携していけるように、また指導者養成のための工夫も含めて考えていきたい。

委員

子どもが来るということは、学校の先生の考えが一番大きな影響となってくる。あそこは楽しい所、こういったことが出来るという指導をしてもらうために先生にこの施設を知ってもらうということだ。

委員

よい計画にまとまったが、これを運用していく仕方で、基本計画が花を咲かすか萎んでいくかが決まると思う。例えば、先に大学の協力といった話が出たが、本当に大学が協力したい場所になっているかどうか問題であり、そうでなければ、単に協力してもらいたいと言っても、大学には限らないが、なかなか動かない。小学生は親が連れて来たりすることが多いが、中・高校生になってくると自分で動くようになる。彼らがここに来て何かを企画したり、やってみたいと思うような形になると、それなりに廻っていくようになるのだろうが、単にここへ来たら何か教えてあげますよ、というだけではどうだろうか。今は学生は受験に追われていることから、我々も大学で色々やっているが、なかなか人が集まらない。自分がそこに入っていける感じを持つと盛り上がっていくのだろう。そういった意味で先生の教育といった話が出たが、割合細かいと思われる一つ一つが基本計画を成功に持っていける。あとは事務的な立場からのサポート、あるいは教えるほうのサポート、色々なサポートの仕方があると思うが、そういった人たちが岡山県を科学ということで良くしたいという大義名分、言葉だけではなかなか付いて来ないが、何かそれを感じる形に持っていくことが大事だろうと思っている。あとは色々な意見があちこちから出てくることになればいいのだろう。

- 事務局 正に計画倒れにならないように、しっかりしていかなければならないと考えている。大学が協力したいと思う場所になっているか、企業が参画したいと思えるものになっているか、これからもしっかりと研究していく必要がある。現在、各大学や学校、団体の方々にアンケートを取らせてもらっている。これで協力してください、ということではなくて、協力したいと思われるために、どういったことをクリアしなければならないか、課題があるとすれば、どういったところがあるのか、それらの御意見を踏まえた形で運営を検討しなければならないと考えている。先ほど、文面上、高校生たちの研究の発表の場ということを行ったが、創造的な活動に発展していくために、つまり高校生たちが活躍したいと思えるような場所になっていくために、具体的に高校生たちの意見を聞きながら、どう運営をしていくか考えていきたい。
- 委員 今、学校や大学等へアンケートをしているとの話があったが、大学や高校の先生からこの施設に対する、あるいはここでやろうとしていることへの感触はどうか。
- 事務局 非常に好意的な感想を持っていただいている。特に自然科学系の博物館や、大学もコンソーシアムということで産学官連携に関わっている方々に話を聞いており、地域連携、あるいは社会貢献に積極的に参画していく、との回答ももらっているが、一方で大学も非常に忙しい状況にあるので、忙しい状況の中でどこまで関わられるか、あるいは様々なプログラムを組んでいくのはいいが、それに対して利用者確保出来るのか、非常に狭い施設で駐車場も充分ではないため地域の方々へのしっかりとした対応が必要だ、学校利用のためにはお昼を食べる場所、駐車場、雨の日への対応など、現実的な問題をどうクリアしていくのかということに対して、まだまだ整理が足りないとの様々な御意見をいただいている。そういう状況の中ではあるが、理科の教員、そのOBや様々な方々が指導者、教える立場でも参画してみたい、今後の動きを仲間にも伝えておく、というような心強い言葉をいただいております、今後この施設のファンになっていただける方をどう増やしていくかを考えていきたい。
- 委員 かなり協力的な方々がいるということだが、前にも委員から話が出た、いかにコーディネートしていくか、これが施設側の大きな仕事になっていくだろう。そういった意味で、コーディネート出来る人を一人はという意見があったので、この点はよろしく願いたい。
- 事務局 最後に、これまで、検討委員会の委員の皆様から貴重な御意見をいただき、基本計画もまとめの時期に来ているが、引き続き、皆様から御指導いただきながら、良かったなと思える施設にしていきたいと考えているので、今後とも御協力をお願いしたい。